平成二十七年六月投句　【宮地獄神社（菖蒲まつり）】

梅雨晴や茅花の絮を弾きみて　勝利

花菖蒲閉じて赤子の手のやうに

南天の花実に寄る鳥の話も出

緑蔭に佇てば句帳を取り出して　佳与子

花菖蒲一鉢づつが出店にも

運転す夏手袋は右手のみ

親戻るまでの静けさ燕の巣　節子

親を待つだけの一日燕の子

入口に燕の巣ある小児歯科

南天の花の縁先お針箱

南天の花に看取りの日々を聞き　光子

菖蒲田の横に露地もの野菜売り

初島は近く雲仙夏がすみ

図書館の在りし記憶の茂りかな　真理子

戦災の乙女像より夏の蝶

途切れなき人神苑の花菖蒲

さざ波の行き渡りたる植田かな　由紀子

黒南風の東京駅に着きにけり